

七夕の笹に感謝の思いを！

先週に、アメリカのシアトルから14人のお友達をお迎えしました。クラスにお迎えして、一緒に学習をしたのは5,6年生でしたが、下級生の中にも笑顔で「ハロー」と声をかけている人がいました。明日、シアトルの子供たちは、シアトルに帰る飛行機に乗るはずですが、昨日、図書室で彼らを泊めていただいたホストファミリーとのお別れ会をしましたが、担当の先生から何度も何度も八小に来てよかった、八小の子供たちは本当に明るく、礼儀正しく、何より親切だったと、ずっと感謝の言葉を話されていました。



今回のように、みんなが、シアトルや韓国やオーストラリアのこどもたちとあたたかい友情を広げているのとは正反対に、大人の世界では戦争が終わりません。しかし、世界に友情を広げている私たちがつくる未来は、みんなが仲良くして力を合わせてつくる世界です。勉強は楽しいときばかりではないかもしれませんが、つらいときもあるかもしれません。でも、平和で明るい未来をつくる一人一人になっていくには、もっともっと力を付けていかなければいけないと思います。体も鍛えていかなければいけません。平和な世界をつくる自分になるのだと、どんな困難にも勇気をもって挑戦する皆さんになっていってください。誰にでも優しくできる皆さんになっていってください。

今日のお話の最後に、私は七夕の笹の話をしたと思います。

今、放課後こども教室前の廊下に七夕の笹が飾ってありますね。すでに

たくさんのお願いごとの短冊が笹にかけてあります。この笹は毎年この時期になるとあるのですが、これはどなたがご用意してくださっているか皆さんは知っていますか。

皆さんが日頃からとてもお世話になっている井戸さんです。



あの大きな笹は、実は井戸さんのお庭の笹なのです。井戸さんはその笹をご自分で切って、あの大きな笹をご自身で学校まで運んで、廊下に飾ってくださったのです。短冊も井戸さんです。短冊1枚1枚に糸がついていますね。この細かい作業一つ一つも井戸さんです。あれだけの数の短冊に糸をつけるのはどれだけ大変なことだったでしょう。皆さんはその大変さを想像できると思います。井戸さんはどんなお気持ちでこの笹と短冊をご用意してくださったでしょう。皆さんに立派になって欲しい、笑顔になってほしい、幸せになってほしいと願いを込めながらご準備をしてくださったに違いありません。その心を思った時、短冊に書くときの気持ちも改まりますね。もし、1枚でも床に落ちていたら、その落ちた短冊を井戸さんをご覧になったら、どんなにか残念な気持ちになるでしょう。

井戸さんは今朝も道に立って、皆さんの登校の安全を見守り、明るく挨拶をしてくださいました。

真心には真心でお応えするのが、人としての正しい姿です。

皆さんは、こうした多くの目に見えない真心に支えられて学校生活を送っているのです。日々の生活の中で、人の真心に気づき、感じ、「ありがとうございます」と感謝の気持ちを持てる人になっていって欲しいと思います。